

戦争経験者による体験談

永井委員

戦争が終結して70年が過ぎましたので、私の記憶の中ではつい先日の出来事であった様な形で消えることはありません。私は本来ならば小金井の小学校で6年間をすごすつもりで居りましたが、5年生の時に受験を夢見て武蔵野の小学校に転校しました。その頃は、まだ本土空襲は予想しておりませんでしたので大丈夫と聞いていましたが、昭和19年に入り戦況が悪化し、現実となってきました。

11月24日の東京空襲は武蔵野と三鷹に在りました中島飛行機製作工場をめがけての爆撃が激しく続きました。6年生の2学期も終りに近い頃、この日授業中に警戒警報のサイレンが鳴り、一斉下校となりましたが私は電車通学でしたので吉祥寺駅まで一目散に走って電車に乗りましたが、空襲警報と同時に電車は止まり、乗客は窓から飛び降りて避難場所を探しましたがなかなか見つからず、大人の中に混じって探していたその時「ここに入りなさい」と呼んで下さったおばさんがいました。その後について行き防空壕に入れていただきますと、中に小学生2人と大きなお兄さんが入っていて5人になりましたが、防空壕が小さくてぎりぎりいっぱいでした。間もなくして物凄い爆音と共に頭上をB29の編隊が通過し、お兄さんが覗いてみますとかなりの編隊が南に向かって進んで行ったとおっしゃいましたが私達は見るどころではなく、脅えながら3人肩を組んで伏せていますと落雷の様な地響きと同時に防空壕が崩れ、天井に載っていたものが全部中に落ちて泥まみれになったまま伏せていましたところ、気がついた時には3人の上に大きなお兄さんがおおい被さる様に支えて下さったおかげで生き埋めにならず助かりましたがお兄さんは泥まみれでした。その時「この人こそ命の恩人だ。」と感激し、3人は口を合わせたように「有難うございました」と言いますと「大丈夫だったか、良かったな」と言って下さいました。

今迄体験したことの無い恐怖に脅えつつ壕の中に潜んでおりますうちに空襲が解除され、外に出る事が許されましたので電車の開通を待つことになったその時、「ではみんな気をつけて帰るんだよ。大丈夫かい？」と言い残してあっという間に立ち去ってしまい、お名前を聞く間もなく「有難うございました」の一言でお別れし、残った子ども同士は名残りを惜しみつつそれぞれ帰途に着きました。家に入りますと両親は私の帰りを待ちきれず、母は自転車で私を探しに行くと言って家を出ようとした時、父に強く止められて間もなくすると物凄い音と共に近くに爆弾が落ちたようだったと言いました。後にわかったことは現在の江戸東京たても園前の陣屋橋西側百メートル程の玉川上水北側土手にかけて爆撃が投下され大きな穴が出来て五日市街道は通行

止めとなり、若しもあの時母は父が止めるのをふり切って私を探しに出て居たならこの恐ろしい出来事に遭遇していたのではないかと知った時、気が遠くなる思いで、「生きていてよかったね」と親子三人抱き合っ泣いた時のことは今も昨日の事の様に心の中に生きています。その後は日を増す毎に空襲は激しさを増し、授業中に警報が発令された場合は歩いて帰宅することにしたのですが、武蔵製作所を目標とした爆撃のときは防空壕が見つからず逃げまどっていました時六十メートル程先に壕があると聞き避難するところでしたが突然の轟音に足がすくみ走れなくなったその時爆弾は壕の隣に落ちたと知らされ、たどり着けなかったおかげで命拾いしました。

またある時は吉祥寺から三鷹方向に歩いて帰る途中空襲になり、身を隠す場所を探していた時下水の中に避難することを知り、子どもは次々に入りました。中は水が流れていますので濡れるのを覚悟で入り、這って進みました。空襲が解除になるまでうまく時間を費やして、家にたどり着いた時はどろんこ、びしょぬれで実に惨めな有様でした。この様な体験をくり返すうちに六年を卒業し、東京に近い学校の受験は諦め、家から近い都立高女に入学しましたが、夢見ていた女学校生活とは裏腹に、日毎激しさを増した本土空襲の中での授業は妨げられ、防空壕に避難していた時間の方が長く、天井の無い長い溝の様な壕の中からは低空飛行で機銃掃射をしながら飛んで行く姿を目の当たりにした時、「私達はいつまで生きられるのかしら」と友達同士手を組み合ってささやきました。その時近くにいらっしやった先生は「いざと言う時には会津白虎隊の様に刺し違えて死にましよう」と仕草をなされたときは呆然となりました。

銃剣術、竹槍、薙刀の稽古にも手のふるえる思いでした。生死を共にと生きた学友も今ではめっきり少なくなり、語り合う機会もありませんが脳裏からは決して消えず、今迄したためて来た記録をひもとき、命の大切さ、平和の尊さ、人の絆の有難さを若い世代の方々に語り伝えるべく、残り少ない命の声を大にして叫びます。みなさん平和の幸せをかみしめて守り続けてください。